

ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2024年9月

販促・魅力発信

- 令和6年9月1日から1ヶ月間、東北経済産業局が入居する合同庁舎1階の行政情報プラザ（※）において、ALPS処理水の現状と水産加工品の復興状況に関する展示をおこなった。
（※）情報発信の場所として、経済産業省施策の紹介をはじめ、東北地域経済を牽引する技術、東日本大震災からの復興に関する情報など、様々なテーマで展示
- 具体的には、気仙沼市、（公社）福島相双復興推進機構、（一社）大日本水産会魚食普及水産センターの協力を得て、三陸・常磐地域の水産加工品やパンフレット等を展示。
- また、ALPS処理水の理解促進のため、TEPCO（「ALPS処理水についてお伝えしたいこと」）、当省（「水産物の安全・安心のために」）作成のパンフレットを展示・配布。

展示の様相



- 8月30日～9月1日の3日間、大阪府堺市の「大起水産 まぐろパーク堺本店」にて、同社と福島相双復興推進機構の連携により、福島県の水産加工品の販売会である「ふくしま常磐大漁市」を開催。
- 本イベントでは、福島県の水産加工業者5事業者の商品15品を販売。また各商品の試食も実施。
- 開催期間中は台風10号の影響であいにくの天候の日もあったが、**多くのお客様が来場。関西圏での開催でもあり、特にボイル柳だこの品質と価格のバランスの良さに驚かれ購入される方が多かった。**
- また、今回販売した商品の中で**大起水産との定常取引に繋がるものが出るなど、関西圏での販路の開拓に繋がった。**

ふくしま常磐大漁市 in 大起水産まぐろパーク（大阪府堺市）



▲大起水産 まぐろパーク堺本店



▲販売コーナー



▲試食の様子

■ 来場者の声

「タコの身がしっかりしていて美味しかった。安い。」「初めて常磐ものの干物を食べた。美味しかった。」「まぐろパークにはよく来るが、福島の商品はなかなか買えないので、またやってほしい。」

- 9月18日～23日の6日間、JR大宮駅の西口イベントスペースで開催された「南東北産直市」に、福島相双復興推進機構の主催で、福島県の水産加工品の販売会である「ふくしま常磐大漁市」を出店。
- 本イベントでは、**福島県漁連をはじめとした福島県の水産加工業者等10事業者の商品約30品を販売。**
- 開催期間中は毎日多くのお客様が来場。同じ大宮駅で開催した**昨年11月の「南東北産直市」や会期中のリピーターも多かった。**また、「ふくしま常磐大漁市」では初めての販売となった**山菱水産の「マグロ切り落とし」「ネギトロ」は完売**となった。

ふくしま常磐大漁市 in 南東北産直市（大宮駅）



▲会場の様子

■ 来場者の声

「福島のを応援したくて買いに来た。」「タコが最近高いから、味付きでこの価格は安く感じる。」「ヒラメが立派で美味しそう。」「昨日マグロとちぎり揚げを買って美味しかったからまた来た。今日は違う物を試したい。（→別商品をご購入）」



▲山菱水産の「マグロ切り落とし」と「ネギトロ」



▲マグロPOP

- 8月22日、9月4日に中小企業基盤整備機構において、部署横断によるランチ会を開催し、「三陸・常磐もの」の消費拡大を実施。
- 三陸・常磐ものネットワークに参画する業者が販売する弁当を購入し、総員89名へ提供した。
- 今後もランチ会を開催し、三陸・常磐ものの消費拡大を図る。

8月22日(木)ランチ会の様子



▲ランチ会開催趣旨説明の様子



▲食事の様子



▲参加者集合写真

9月4日(水)ランチ会の様子



▲注文したお弁当



▲食事の様子



▲参加者集合写真

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ ふくしま」の取り組みの一環として、9月14日～15日の2日間、郡山市の21世紀記念公園麓山の杜で開催された福島の日限定メニューを提供し福島の美味しいと楽しいを堪能するイベント「ふくしまフードフェス」にて、「発見！ ふくしま」公式アンバサダーの**箭内夢菜さんがイベントトークショーに出演し、福島県産品をPRするとともに、常磐ものを使った福島サルサフィッシュバーガーなどを提供した。**
- **イベント開催の2日間で、常磐ものメニュー約600食を販売した。**

ふくしまフードフェス2024

- 日程：9月14日（土） 11：00～20：00
9月15日（日） 11：00～17：00
- 場所：郡山市 21世紀記念公園 麓山の杜



▲キッチンカー



▲イベントトークショー

理解釀成

- 本年9月7日に開催された「なつ祭りinおおくま」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



- 本年9月14日に開催された「ふたばワールド2024inひろの」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載。**

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

- ALPS処理水って何？
本当に安全なの？
- トリチウムって何？
- なぜALPS処理水を
処分しないといけないの？
- 本当に海洋放出しても
大丈夫なの？
- 近海でとれた
魚は大丈夫なの？

ALPS処理水に係る
モニタリング

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

Twitter Facebook Line Email

日本語 | English

安全対策・
風評対策の取組 > 関連コンテンツ >

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全性の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

※12月22日に採取を行ったALPS処理水（K4-Bタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）

現在の状態 ※

異常なし

※最新の各種間での分析結果をもとにしています

凡例

異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示

「放出停止判断レベル」を超えるときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。これを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

ページはこちら

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？




- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
トリチウムって何？




- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？




- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？




- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？




- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 2024年9月16日から20日にかけて、オーストリア・ウィーンにおいて、**国際原子力機関（IAEA）第68回総会が開催**された。
- 16日に、日本政府代表の上坂充内閣府原子力委員会委員長が一般討論演説を行った。

我が国政府代表が述べた内容

ALPS処理水の海洋放出は、IAEAの関与の下で行われ、近隣諸国を含む各国の分析機関や国際専門家も参加するモニタリングやレビューにより、ALPS処理水の海洋放出の安全性が裏付けられていることやALPS処理水はALPSにより浄化された後、さらに海水により十分に希釈された後、放出されるため、人や環境に影響を及ぼすことはなく、**ALPS処理水を汚染水と表現することは適切ではない**旨説明するとともに、日本は、内外のステークホルダー、とりわけアジア太平洋及びそれを超えた地域の関係者への関与を継続・強化し、**国際社会に対して、透明性の高い説明を続けていく**旨述べた。また、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取組も進んでおり、**最難関である燃料デブリ取り出しを含む新たな段階へと進んでいく**と発信した。

（参考URL）第68回国際原子力機関（IAEA）総会における一般討論演説（和文）の全文はこちらをごらんください
<https://www.meti.go.jp/press/2024/09/20240926004/20240926004-a.pdf>



総会一般討論演説

- 2024年9月17日、経済産業省は、IAEA総会にあわせて、**サイドイベント**「東京電力福島第一原子力発電所の廃炉と福島の復興」を主催した。
- イベントは、廃炉と復興に焦点を当て、経済産業省、東京電力、原子力損害賠償・廃炉等支援機構、環境省から、**廃炉と福島県における復興の概観、東京電力福島第一原子力発電所における廃炉の現状、燃料デブリの取り出し、オフサイトにおける取組の進捗を発信**した。
- IAEAから、**ALPS処理水の海洋放出に関連するIAEAの取組の紹介がなされるとともに、海洋放出されている水は汚染水ではなくALPS処理水であるとの見解**が示された。

サイドイベントの概要

日時：9月17日（火）10時～12時前

テーマ：「東京電力福島第一原子力発電所の廃炉と福島の復興」

日本側出席者：経済産業省、東京電力、原子力損害賠償・廃炉等支援機構、環境省

IAEA側出席者：原子力安全・核セキュリティ局、原子力エネルギー局



サイドイベント

- 2024年9月20日、岸田総理はグロッシー事務局長との電話会談を実施。
- 会談についての岸田総理大臣会見での発言は以下のとおり。

岸田総理大臣会見概要

- 先ほど、IAEA（国際原子力機関）のグロッシー事務局長と電話会談を行いました。会談において、ALPS（多核種除去設備）処理水の海洋放出について、改めて、我が国への信頼を示していただきました。そして、IAEAの枠組みの下、モニタリングには従来から、各国の専門家が参加しているところですが、**今般、各国の関心を踏まえ、IAEAの現行のモニタリングが拡充され、その中で、中国を含む参加国の専門家による採水等のサンプリングや、分析機関間比較が実施されることで一致**いたしました。我が国として、この追加的なモニタリングを歓迎いたします。
- そして、これに関連をして、中国との間でも、事務レベルで協議してきており、本日までに一定の認識を共有するに至りました。日本側から、ALPS処理水について、追加的なモニタリングを行う用意がある旨、伝達し、一方で、**中国側は、日本産水産物の輸入規制措置の調整に着手し、基準に合致した日本産水産物の輸入を着実に回復させる**こととなりました。我が国の立場が、規制の即時撤廃であることには変わりはなく、今回の発表を規制の撤廃につなげていく、このように考えております。私からは以上です。

（中国による日本産水産物の輸入禁止措置撤廃に向け、いつまでに、どのような基準で中国は対応する予定か及び今後の政府の対応について）

- これは**具体的にいつまでということについては明らかにはなっていません**が、我が国としては、規制の即時撤廃、これを求めてきています。追加的なモニタリングの実施を踏まえ、当然、**日本産水産物の輸入が着実に回復されるものであると理解**しています。既にこれまでのモニタリングでも、ALPS処理水の安全性の確認が積み上げられており、中国側にこうしたデータも提示し、そして撤廃を求めてきています。そして、この基準については、中国の既存の食品安全性や品質に係る基準を指すものと思いますが、中国国内で流通する食品や、諸外国から輸入する食品に係るものであり、特定の国に差別的なものではない旨、これは中国側から確認しております。

（参考URL）【首相官邸報道発表】グロッシー国際原子力機関（IAEA）事務局長との電話会談についての会見
https://www.kantei.go.jp/jp/101_kishida/statement/2024/0920kaiken.html

- 2024年9月20日、**日本と中国の関係当局は**、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出に関し、建設的な態度をもって協議と対話を通じて問題を解決する方法を見いだしていくという首脳間の共通認識に基づき、**累次にわたって意思疎通を継続し、以下の認識を共有するに至った。**

日中間の共有された認識

1. 日本側は、ALPS処理水の海洋放出をIAEA安全基準及び国際法に整合的に実施し、人体や環境に負の影響を及ぼさないよう最大限努力するとともに、海洋の環境及び生態への影響に関する評価を継続的に行っていく旨を明確にした。
2. 日本側は、中国を含む全てのステークホルダー国の関心を踏まえ、IAEAの枠組みの下で海洋放出の重要な段階における長期的かつ国際的なモニタリングが拡充されることを歓迎するとともに、中国を含む全てのステークホルダー国がこれに有効に参加し、それら参加国による独立したサンプリングや分析機関間比較が実施されることを確保する。
3. 双方は、生態環境及び人々の健康に対して責任ある態度をもって、科学的見地から建設的な対話を継続し、ALPS処理水の海洋放出に関する関心事項を適切に取り扱うことで一致した。
4. 中国側は、中国の関連法令及びWTOルールに基づき、日本産水産物に対して緊急的・予防的な一時停止措置を講じた旨を説明した。中国側は、IAEAの枠組みの下での長期的かつ国際的なモニタリングに有効に参加し、参加国による独立したサンプリング等のモニタリング活動を実施後、科学的証拠に基づき、当該措置の調整に着手し、基準に合致した日本産水産物の輸入を着実に回復させる。

(参考URL) 【外務省報道発表】日中間の共有された認識

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_01181.html

- 2024年9月25日、**台湾当局は、日本産食品の輸入規制措置の緩和**を発表。
- これまで**輸入停止となっていた5県（福島県、茨城県、栃木県、群馬県及び千葉県）の野生鳥獣肉、きのこ類、コシアブラ**について、放射性物質検査報告書及び産地証明書の添付を条件に**輸入停止を解除**。5県産以外の食品について放射性物質検査報告書の添付義務を撤廃。

規制緩和の概要

現行規制対象品目	規制内容	見直し後の規制対象品目
福島県、栃木県、群馬県、茨城県、千葉県の <u>野生鳥獣肉、キノコ類、コシアブラ</u> (及び日本国内での出荷規制品目)	輸入停止	日本国内での出荷規制品目
①岩手県、宮城県の <u>水産品</u> ②静岡県 <u>の茶類産品</u> ③宮城県、埼玉県、東京都の <u>乳製品及び乳幼児食品</u> ④岩手県、宮城県、静岡県、山梨県の <u>キノコ類</u> ⑤ <u>福島県、栃木県、群馬県、茨城県、千葉県の全ての食品</u>	放射性物質検査証明書の添付が必要	<u>福島県、栃木県、群馬県、茨城県、千葉県の全ての食品</u>
全ての食品	産地証明書の添付が必要	全ての食品

(参考URL)【農林水産省報道発表】台湾による日本産食品の輸入規制が緩和されました
https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu_kokusai/kisei/240925.html

安全確保

東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺 4 地点毎日、その他 6 地点で週 2 回（放出期間中）、放水口周辺 4 地点週 1 回、その他 6 地点で月 1 回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 kmの **2 地点で、週 4 回迅速分析を実施**（放出のない期間は週 1 回）

環境省

○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍 3 地点で期間中 2 回、その他沿岸 20 地点で期間中 1 回、迅速分析を実施。

（参考）原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



計画どおりに安全に放出できていることを確認

- 一昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。**

- 本年9月は3回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（モニタリング状況のお知らせ・「視察・座談会」のご案内・「燃料デブリ ポータルサイト」のお知らせ）

「燃料デブリ ポータルサイト」のお知らせ▶

福島県内
にお住まいの
みなさまへ*

福島第一原子力発電所「視察・座談会」

廃炉作業はどのくらい進んでいるの？ ALPS処理水の海洋放
そんな疑問をお持ちのみなさまに向けて、福島第一原子力発電
廃炉やALPS処理水に関する疑問や意見をお聞かせください。

※お申込条件：現在、福島県内にお住まいの方。または、2011年3月11日時点で県内にお住まいだった方

●視察・座談会の流れ

- 12:00 廃炉資料館へ集合
13:40 福島第一原子力発電所視察
15:40 座談会
16:20 解散（廃炉資料館）
* 普段着でご視察いただけます。
* 本視察では放射線被ばくを伴いますが、
被ばく量は0.01～0.02ミリシーベルト
（歯科レントゲン1～2回分）を想定しています。



●開催日程(20

⑧ 2024年11月 9日

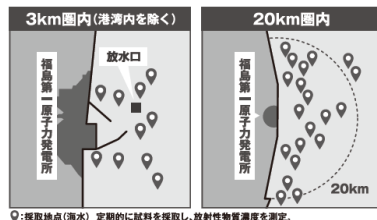
参加申し込み
お問い合わせ先

080-5555-7988(TEL)

電話受付：平日9:00～17:00(土日祝日を除く)
東京電力廃炉資料館内 東京不動産管理株式会社 事業運営部 視察運営グループ

「視察・座談会」のご案内▲

モニタリング状況のお知らせ▶



海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や廃物の放射性物質濃度には、**有意な変動は確認されていません。**
詳細は当社ホームページをご覧ください。
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water/treatment/monitoring/>



※1:トリチウムの検出下限値は1リットルあたり10ベクレル程度とし、測定時間を短縮して迅速に結果を得る測定
※2:福島県周辺海域における過去の変動動態は、セシウム134:0.000051ベクレル/リットル、セシウム137:0.00028ベクレル/リットル(出典:日本の環境放射線と放射線) 期間:2019/4～2022/3)

	エリア	海水の測定結果[単位:ベクレル/リットル] (2024年8月1日～8月末までに得られた測定結果の最大値)
トリチウム (迅速測定*)	3km圏内	9.0
	20km圏内	検出せず(<7.6)
セシウム134**	3km圏内	検出せず(<0.98)
	20km圏内	検出せず(<0.0014)
セシウム137**	3km圏内	検出せず(<0.95)
	20km圏内	0.043

【<】の右側の数値は検出下限値、検出下限値を下回った場合は、検出せずと記載
*1:トリチウムの検出下限値は1リットルあたり10ベクレル程度とし、測定時間を短縮して迅速に結果を得る測定
*2:福島県周辺海域における過去の変動動態は、セシウム134:0.000051ベクレル/リットル、セシウム137:0.00028ベクレル/リットル(出典:日本の環境放射線と放射線) 期間:2019/4～2022/3)

包括的・海域モニタリング閲覧システム(ORBS)

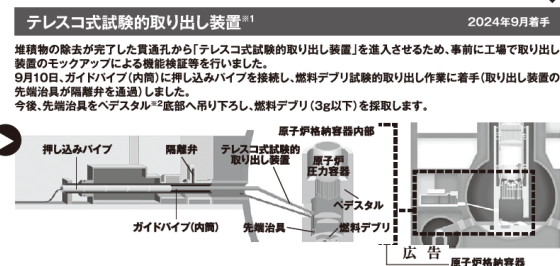
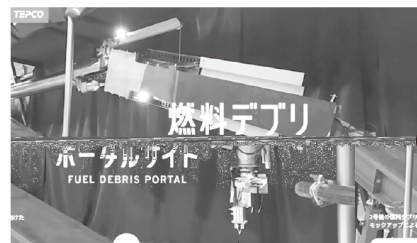
当社以外の各機関(環境省、水産庁、原子力規制委員会、福島県)が測定した海水
および水産物の放射性物質濃度にも**有意な変動は確認されていません。**
詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できるORBSをご覧ください。
<https://www.monitororbs.jp/>



福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組をお伝えします Vol.39

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組についてお知らせします。【復興と廃炉の両立】に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

福島第一原子力発電所では、事故の際、原子炉内の燃料が溶け周囲の構造物と混ざりながら冷えて固まった「燃料デブリ」の取り出しに関連する取組を安全最優先で進めています。それらの取組について、イラストや動画を用いて紹介する「燃料デブリ ポータルサイト」でお知らせしています。



福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ(2024年9月)

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視(モニタリング)を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標(放出停止判断レベル:700ベクレル/リットル)を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

TEPCO

ホールディングス株式会社
「廃炉推進カンパニー」
福島県双葉郡大熊町大字水沢字北原22

【参考】トリチウム濃度の比較

単位:ベクレル/リットル	
60,000	国の規制基準(放水口)**1
10,000	世界保健機関(WHO)飲料水水質ガイドライン
700	放出停止判断レベル**2(発電所から3km以内)
350	調査レベル**3(発電所から3km以内)
20	日本全国の海水**4 過去の観測範囲
0.043	

*1.原子力施設の放水口から出る水。毎日、その濃度が約2リットルあたり10ベクレル程度で、年間約100万リットルを放出する。この濃度は、WHOの飲料水の水質ガイドラインの10,000ベクレル/リットルを大きく下回る。また、この濃度は、WHOの飲料水の水質ガイドラインの10,000ベクレル/リットルを大きく下回る。
*2.放出停止判断レベルを判断する際の指標
*3.放出停止判断レベルに達する前の段階において必要な対応を取る指標
*4.出典:日本の環境放射線と放射線(期間:2019/4～2022/3)